

地域包括ケアに関する取組み

東 区

令和6年3月末現在

○概況

<p>【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】 東区は市内で最多の人口で、増加傾向は継続。多々良川や三日月山、海の中道など豊かな自然に恵まれる一方、アイランドシティや千早・香椎駅周辺、九大箱崎キャンパス跡地など新しいまちづくりが進み、若い世代の転入も多く、校区の違いがある。また4つの大学があり、学生も多い。</p> <p>【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】 高齢化率は、50%を超える校区がある一方、6%程度の校区もある等、地域差が大きい。</p> <p>【社会資源（介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況）】 丘陵地の校区や市営住宅・県営住宅等の大規模団地が多い校区では、高齢世帯が増えているため、地域での担い手不足も課題となっている。また、介護サービス事業所等数が少ない、オンライン診療に際し通信障害が生じるなど、地域によって社会資源等の状況が異なる。なお、東区全体を14事業所ネットワークがカバーしており、地域での生活支援・介護予防活動について、地域と連携した取組を行っている。</p>	人口（人）	313,963
	高齢者数（人）	72,517
	高齢化率（%）	23.1
	小学校区数	30
	いきいきセンター 圏域数	11

○地域包括ケアに関する現状と課題

○医療・介護：・多職種連携研修会を3回実施。テーマは1回目「がん患者の在宅医療」、2回目「訪問リハビリと訪問介護について」、3回目「ポリファーマシー」とした。2回目ではグループワークを実施し、多職種で直に意見を交わす機会になり顔の見える関係づくりができた。今後も多職種連携企画委員会で、在宅医療・介護の市民啓発事業と研修会についてテーマ・実施方法を検討し、多職種間の連携強化につなげていく。

・入退院連携を行う上で、コロナ対策の影響で、顔の見える関係が薄まったものの、再度関係づくりに取り組んでいるところである。

・医療・介護の支援者は、ACPの普及啓発の必要性を認識し、各団体できるところから取り組みを始めており、地域ケア会議の中で展開について検討を行った。今後の展開方法については、多職種での検討を継続していく。

○生活支援・介護予防：H27年度から各ブロック支援病院が、地域連携会議を1～2回実施していたが、コロナの影響もあり停滞していたブロックがあった。医療側の協力強化を目的として、R5年度事業所ネットワーク交流会に、ブロック支援病院の参加を呼びかけ、全病院の参加を得た。今後ブロック支援病院の力を得ることで、医療・介護・地域のつながりづくりに広がり期待され、継続して関わっていく。

○若い世代から、認知症の正しい理解促進を図るきっかけとして、認知症サポーター養成講座・認知症声かけ訓練等を、事業所ネットワーク・認知症ライフサポートワーカーと協働して進めている。また「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」の視点を持ち認知症ライフサポートワーカーと地域展開を検討していく。

1. 令和6年度取組みの中で、特徴あるもの

取組内容

(1) 認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる東区を目指し、若い世代を含め、すべての区民が認知症を正しく理解できるよう、地域・大学・事業所ネットワーク・認知症ライフサポートワーカーと連携し、認知症の普及啓発及び情報発信を図る。

東部地域3大学（福工大、九産大、福女大）と連携した認知症啓発事業



認知症サポーター養成講座



東区認知症オレンジちゃんねる



認知症ライフサポートワーカーが作成した動画を掲載



認知症声かけ訓練



訓練実施後の振り返り

(2) 医療・介護・地域の連携強化を図るため、

- ① 6つのブロック支援病院間での情報共有・意見交換の場（実務担当者交流会）を開催する。
- ② 事業所ネットワーク等の活動の活性化、相互の協力・連携体制の構築、つながりづくりのために、交流会を開催する。

事業所ネットワーク等交流会



事業所ネットワークの取組事例を発表



「事業所NWの活動での困り事、取り組んで良かった事等をみんなで共有しよう」をテーマに、意見交換

2. 令和5年度の取組み状況

(1) 地域ケア会議の状況

① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）

【検討内容】認知症がある単身生活の方、障がいがある家族へも支援が必要な方、キーパーソン不在等、支援が必要な事例の会議を開催。ケアマネや事業所の他、警察・区障がい者基幹相談支援センター等にも出席を依頼し、世帯全体の課題解決に向けた連携を行っている。

個別支援会議開催状況・会議回数：165回（うち介護予防型個別支援会議29回）

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

◎ 事業所ネットワーク×地域で福祉マップを更新



千早校区では、地域福祉懇談会にて、「なみきつながりネット」と地域住民で、校区における高齢化の課題を認識し、福祉マップの更新を行った。

◎ 事業所ネットワーク×社介戦士サントイガーで小学生向け認知症啓発事業を実施



香住丘校区では、香住っ子ひろばにて、小学1年～6年生を対象に、「香椎・香住丘さくらネット」と「社介戦士サントイガー」による認知症啓発事業を実施した。



高齢者地域支援会議
開催状況

・会議開催校区（地区）数5校区（地区）、延べ回数：5回
・内容：高齢者の実態・課題について意見交換し、地域で高齢者を支えるための解決策や取組みの検討。

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組み

1 ブロック支援病院・事業所ネットワーク・地域との連携



区内4ブロックにおいて、ブロック支援病院、医療・介護専門職、地域で生活支援・介護予防等の実施に努め、また、地域包括ケア連携会議等も実施している。さらに、ブロック支援病院同士の連携を図るために、ブロック支援病院実務担当者交流会を開催。この結果、事業所ネットワーク等交流会（2回開催）にブロック支援病院も参加となり、事業所ネットワークとの連携・つながりづくりが進んでいる。

圏域連携会議開催状況

・会議回数：3回
・「地域の見守り」「気づきの眼（芽）を育てよう」等をテーマに高齢者の見守りや支援体制についての会議を実施

④ 区レベルの取組み（特徴ある取組み）

グループホーム（GH）管理者からの発信で令和4年度よりGH職員の交流の機会として東区GH情報交換会を企画、開催。令和5年度は3回/年開催支援した。令和6年度は後方支援予定。

区地域包括ケア
推進会議開催状況

・区地域包括ケア推進会議：1回
・部会 ①在宅医療・介護部会：1回、②権利擁護部会：1回、③生活支援・介護予防部会：1回
①の部会でテーマとした「ACP普及啓発」については①コスト面含め現実的な検討ができる機会提供②支援者間で本人の想いを共有できるような連携強化が必要として、市推進会議に報告した。

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組み、事業所ネットワークの活動等

取組み	具体的内容
多職種連携研修会	東区医師会、東区保健福祉センターの共催で開催。（3回、計287名参加）
市民向け在宅療養シンポジウム	地域住民のための東区在宅療養シンポジウム2023「もしものときの医療とケアを考える」「もしも」を話し合うーあなたの希望や価値観を共有してみませんか」（1回、188名参加）
同一業種による連絡会への出席 ①訪問看護 ②小規模多機能 ③ケアマネ ④グループホーム	①②一部対面開始となった。医療や介護連携に関する情報提供や課題の確認、家族の会への支援を行った。③対面開催となり、R4年度聴取した「ケアマネジャーのACPに関する意識調査」の東区、福岡市の結果報告を行った。また①～④共に継続し後方支援を行う。
事業所ネットワーク	・福祉施設・介護事業所・医療機関などがネットワークを組んで、横の連携を図るとともに、地域において、出前講座の開催、健康サロン・地域カフェの協力支援、買い物支援、認知症声かけ訓練への参加、認知症カフェの開催など、地域貢献につながる取組みを行っている。 ・令和6年3月末現在、14団体が結成され、東区の全校区にて活動を行っている。
よかトレ実践ステーション登録推進	R5年度末現在、30校区、153か所を創出している。
ロコモ予防啓発事業	①ロコモ予防啓発リーフレット（うちわ）の作成・配布（区内小学校等、約2万枚） ②イベントを活用した啓発活動（なみき芸術文化祭、アイランドシティフェスティバル等）